

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 吹上 小学校
校長氏名	高橋 量也
作成日	2015/3/10

1 教育目標

新しい時代を切り拓く、心豊かでたくましい人間を育成する
 (ふ)深く考え、進んで学ぶ子 (き)気概をもち、めあてに向かって働く子
 (あ)あたたかい心をもち、なかまともがきあう子(げ)元気いっぱい体をきたえる子

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	信頼される学校をめざして、積極的に学校を開放し、育友会や吹上地区各種団体との連携を密にしながら、学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる機運を高める。また、安全・安心な学校づくりをめざし、セキュリティ面や個人情報の保護等にも十分配慮していく。	あらゆる教育活動の場における教職員の立ち振る舞いが児童の豊かな心を培う上で大きな要素となる。教職員が常に一人一人を大切に人権感覚を磨き、きめ細かな指導を行うことにより、児童の人間性を養っていく。	一人一人の児童の特性を把握し、その特性に応じた適切な指導を行うことによって、自分の「よさ」長所を生かした生き方の基礎を培う教育活動を展開する。「算数教育」の実践研究において、自分の考えを「かくこと」「説明すること」や「考えをつなぐこと」を通してより主体的に学ぶ力と論理的な思考力を育てることを意識した授業を行う。

取組の状況【D】	年5回の授業参観、そのうち6月は1日学校公開日、11月の学校開放月間は、学校1日公開と日曜参観日を設定、日曜参観日には併せて教育講演会を実施する。より多くの地域の方々にも来校していただけるよう、学校通信や地域の回覧板を活用する。また、学校の実情に応じ、できる限り地区・各種団体の実施する取組に参加・協力し、学校との連携を密にする。また、メール配信システムやホームページを利用して自校から情報発信するなど、様々な方法でより確実に情報発信する。	命の大切さや奉仕の精神、互いに認め合う心を育てるため、安らぎのある学級づくり、なかよし活動、JRC活動などの取組を行う。情報端末普及により、情報モラル教育を進める。積極的に体験活動を導入し、体験活動で学んだことと道徳教育との関連を図る。一人一人を大切に教育をこころがけ、特別支援教育の視点から一人一人の子どもに対しカウンセリングマインドで接する。「あいさつ運動」「履物をそろえる」など、ソーシャルスキルの実践を通して心の育成に努める。	特別支援教育の精神を学校全体で共有し、特別支援学級はもちろん普通学級においても特別支援の視点を取り入れた授業を展開し、どの子どもも「分かる・できる」が実感できる授業づくりに努める。また、関係機関との連携を図る。算数教育研究発表会を開催し、低・中・高学年の研究授業及び研究協議を通してこれまでの取組の成果を検証する。「かくこと」「説明すること」に加え「考えをつなぐこと」を重点課題として論理的に考え表現できる子どもの育成に努める。
----------	--	---	--

取組の成果と課題【C】	<p><学習参観・懇談等>6月と11月の学校1日公開及び授業参観には、9割近くの保護者が出席。日曜参観には、公民館との共催でスクールカウンセラーの澤井益美先生に「家庭で育む子どもの力」と題して家庭教育に関する講話をしていただいた。男性の保護者も大勢参加していただき好評であった。</p> <p><特別支援学級参観>例年の参観の日程では、交流学級の参観が中心になり、特別支援学級での学習の様子や成長を確かめ合う機会が少なかったため、本年度より、別の日を設定し、保護者がゆとり参観・懇談に参加できるようにした。</p> <p><集会>例年行っている4年生が運営するふれあい集会では、音楽科の学習を中心に日頃の学習の成果を多くの保護者や祖父母、地域の方々に見ていただくことができた。</p> <p><地域連携>吹上地区子どもセンター企画・運営のチャレンジスクール、公民館主催の敬老会、地区の防災訓練等、学校で行われる各行事に参加、協力することができた。</p> <p><人権学習参観>例年行っている人権学習参観では、各学年がテーマを設け、児童の学習の様子を見ていただいた。しかしながら、その後の懇談会や情報モラルをテーマにした人権侵害の講演会の保護者の参加は非常に少なかった。</p> <p><防災・防犯>日曜参観に多くの保護者が来てくださるので、授業後、引き渡し訓練を行った。また、二次避難場所である和歌山大学附属小学校のグラウンドへの高台避難についても、比較的スムーズに行うことができた。以前から課題となっていた休憩時間の地震を想定した避難訓練も実施した。</p> <p><学校だより等>昨年度途中から学校便り「たまも」を両面刷りにし、学校の取組をより理解していただくように工夫した。また「EAT通信」や「すこやか」等で食への興味や健康面への配慮等について発信する機会とした。さらに、校内の掲示等で、食育や健康・安全の意識を高める工夫を行った。</p> <p><福祉教育推進モデル校>本年度、和歌山市社会福祉協議会の「福祉教育推進モデル校」として、「なかよし活動」や「JRC活動」、「福祉に関する取組」等を報告し、本校の取組を保護者や地域に発信する機会となった。本報告会について、事前に地域に広報をしていたこともあり、地域の方が募金等に協力してくれたことは児童の励みになった。</p>	<p><日々の教育活動>安らぎのある学級づくりをめざし、職員が鋭い人権感覚を持って児童に対応するために、職員間の情報交換(吹上の子)や研修を大事にしてきた。</p> <p><いじめなくそうデー>各月始めの水曜日を「いじめなくそうデー」として、各クラスの児童の実態に応じた内容(絵本やソーシャルスキル等)での取組を行っている。</p> <p><全国学力・学習状況調査>全国学力学習状況調査の児童質問の「自分にはよいところがあると思いますか。」において、本校児童は高ポイントであった。これは、学校の教育活動の中で、様々な成功体験を積み重ね自分に自信を持つことができていると考える。</p> <p><人権教育の推進>人権教育の研究授業を行い、児童の心に響く授業の在り方を研究している。</p> <p><なかよし活動>異学年との関わりの中で、高学年は低学年のお世話をすることにより思いやりや優しさ、リーダーとしての役割が育ってきている。また、低学年は高学年を憧れの気持ちをもって接している。この活動は本校の中で特に誇れる取組であると考えている。</p> <p><体験学習>5年生は、紀美野町で2泊3日の農家での宿泊体験学習を行った。農家で宿泊し、自分たちの住む地域では味わえない農業体験や人との交流を通して、人の優しさや人との出会いの素晴らしさを実感し、あらためて家族について考えるよい機会となった。また、4年生は、「福祉」をテーマに、各関連団体の方々との協力を得て、盲導犬や点字、高齢者疑似体験等を通して障がい者や高齢者理解を図ると共に命について学ぶ機会となった。</p> <p><JRC活動>JRC環境委員会が中心となって行う「1円玉募金」や「使用済みカード集め」。その奉仕の精神が、世界中で困っている子どもたちの教育環境を整える等、社会奉仕につながっていることを集会等を通して学習している。</p> <p><挨拶について>児童が進んで挨拶や履物揃えができるように、まずは全職員で後ろ姿を見せていくことの大切さについて共通理解を図った。</p>	<p><現職教育・算数科>本校の研究の柱にしている算数科では、「学ぶ楽しさを味わう算数教育」をテーマに、「考えを創る楽しさ」「考え、問い続ける楽しさ」「発見する楽しさ」「考えを活かす楽しさ」の4つの側面からとらえ、論理的に考え表現する力を育成することをめざしている。そのために、「考えをかくこと」「考えを説明すること」を授業の中で大事にしてきた。本年度の全国学力・学習状況調査において「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」の質問に「当てはまる。」が県平均を大きく上回っている。このことから、日々の実践の積み上げが成果として表れていることが分かる。本年度は、その上に立ち、自分の考えたことを皆で話し合い、考えを聞くことによって、考えがひろがったり深まったりできるような学習をめざし、実践を重ねてきた。本年度も算数教育研究発表会を開催し、参観者の多くの方々から賞賛の言葉をいただくことができた。しかしながら、考えを練り上げ、より良い考えを追究していくためには、教師の働きかけが必要で、その点についてさらに研究を深めていきたいと考える。</p> <p><ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習>児童が集中して学習しやすい環境になるように教室の掲示の仕方や整理の仕方等、本校が培ってきた方法を転任してきた教員にも理解できるように図や写真を用いて学習会を行い、どの教員もユニバーサルデザインの視点をもって、学習を展開できるように努めている。</p> <p><学カタイム>本年度途中から実施した昼休憩後の15分間の学カタイムでは、各学年に応じた漢字や計算等、国語や算数の基礎・基本の充実の時間としている。</p> <p><補充学習>一人一人の児童の「わかる」「できる」を実感させ、確かな力となるよう、補充学習を行った。長期休業中及び各学年で定期的に日を設定し、事前に保護者に学習内容等を連絡し実施している。</p>
-------------	---	--	---

改善方法【A】	<p>・学校開放、学習参観及び学級懇談会等、年間を通してより効果的に実施するためにも、日程や内容等の見直しが必要である。本年度、6月の学校1日公開時に都合により学級懇談の時間を設けることができず、保護者に担任の人となりを知っていただくことができなかったため、来年度は早期に懇談の機会を持ちたい。</p> <p>・保護者や地域に学校での取組や児童の様子をより理解していただくため、情報発信の方法や内容を工夫する。</p> <p>・今日的課題から、集団下校等が必要になった際に、全校児童の集団下校がすぐにとれるような体制づくりが必要である。</p>	<p>・特別な支援を必要とする児童、個別の対応が必要な児童等について、より一層、職員の共通理解を図り、学校全体で見守る等の体制づくりが必要である。</p> <p>・自立した一人の人間として人生を他者とともによりよく生きる人格を形成することをめざし、道徳の内容等を見直し、道徳教育をより一層充実させたい。</p> <p>・各教科で学習したことや体験活動と道徳教育を関連させ、学んだことの補充、深化、統合を図りたい。</p> <p>・課題を抱える児童や保護者にきめ細かな対応ができるよう、スクールカウンセラー等の配置を働きかけたい。</p>	<p>・本年度から実施を始めた学カタイムであるが、主に基礎的・基本的な学習内容に充ててきたが、本校の課題である故事成語、詩等に触れる、事典を活用した時間に充てる等、職員の情報交換を密にし、より内容を充実させたい。</p> <p>・本校児童の学習面での理解について、二極化の特徴が伺える。一人一人の児童に確かな力をつけるためにも、個に応じた指導や補充学習がより効果的に行えるような体制を整えたい。</p>
---------	--	--	---

3 その他の課題

・学校の施設の老朽化が進み、校舎や遊具、体育館の雨漏り等、修繕の必要な箇所が増えてきている。安全面等から気にかかる。行政等に理解を得て対処していく必要がある。